

学界情報

IEEE International Electric Machines and Drives Conference: IEEE IEMDC2009
May 3 – 6, 2009, Miami, Florida USA

2009年5月3日から6日までの4日間、IEEE IEMDC2009 (IEEE International Electric Machines and Drives Conference) がアメリカ合衆国フロリダ州のマイアミで開催された。マイアミ市のダウンタウンに位置しているヒルトンホテルを会場として、49カ国から438人が参加した。日本からは鹿児島大学名誉教授の篠原勝治氏(現大阪府立高専)、千葉工業大学教授の山崎克巳氏、日立アメリカの牧晃司氏(米国在住)と筆者の4人が参加した。期間中天候に恵まれ、5月の陽光のもとでの開催であった。

IEMDCは、回転機とドライブシステムに関する国際会議であり、IEEEのIAS、IES、PELS、PESの4ソサエティが主催している。1997年の開催を第1回として2年毎に開催され、今回で第7回目を迎えた。

549件の投稿があり、査読の結果341件の論文が採択された。そのうちオーラルが180件、ポスターが161件であり、採択率は62%である。採択された論文はIEEE Xploreに掲載される。セッションは永久磁石機、自動車応用、モデリングと制御、グリーンエネルギーなどを中心に36のオーラルセッションと18のポスターセッションに細分化されて進められた。

国別の発表件数は、米国が91件、中国が44件、連合王国が38件と多く、ブラジル、フランス、イラン、イタリアと続き、日本は9件で13番目であり、日本からの発表は以前に比べると少なくなっている。その上、新型インフルエンザの影響で、日本や韓国などの発表のうち、キャンセルされたものがあつた。

会議の前日の5月3日の日曜日には、3件のチュートリアルが企画され、その日の夕方に会議が開催されたホテルでレセプションがあつた。

今回のIEMDC会議の全体のテーマは“Renewable Energy Systems for Today & Tomorrow”であり、それに関連して各日の最初に1件ずつプレナリー講演が企画された。2日目の朝には航空機内の電力の効率的使用についてのプレナリー講演が行われ、温度、空間などの制約条件下で、各々のアクチュエータとパワーエレクトロニクスをいかに最大限にコントロールして電力を効率的に使用するかの話が、聴衆の興味を引いていた。

会議2日目の夜は、バスを連ねてジャングル風の宴会場に移動し、参加者が一緒になって踊るマイアミらしいエキサイティングなバンケットを楽しんだ。

次回のIEMDCは、2011年5月15日-18日にナイアガラフォールで開催される予定である。



写真1 開会式の様子



写真2 ポスターセッションの様子



写真3 Banquetにて(中央がGeneral ChairmanのProf. Mohammed, 後列左から、篠原氏、牧氏、山崎氏、筆者、次回のGeneral ChairmanのProf. Rahman)

高橋 則雄 [岡山大学]
(平成21年5月19日受付)